



wainhouse  
real.objective.insight.

# ロジクールRally Bar Huddleの ファーストインプレッション

今日のハイブリッドオフィス向けに最適化  
されたハドルルームソリューション

提供：

**logicool**<sup>®</sup>

# オフィスに訪れた変化

新しいオフィスのかたちが浸透するにつれ、チームの働き方や会議のあり方も見直されています。そこで重視されるのは、オフィス、在宅、ハイブリッドのうちどの勤務形態でも、従業員が意欲と生産性を保って業務に臨める環境を確保することです。

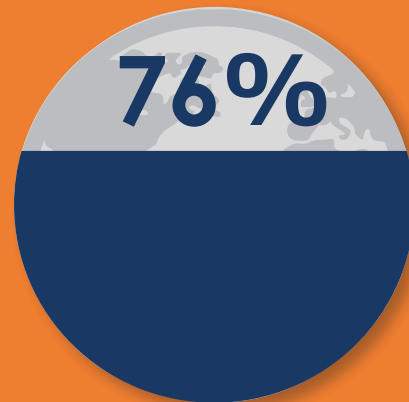
オフィスがなくなるわけではありませんが、その使い方は変化してきています。パンデミック後にオフィスに戻ってきた従業員は、以前は重視していなかった目的や理由があって、オフィス勤務を選択しています。同僚と対面でコラボレーションしたり交流したりする機会を求めています。同様に、設備や職場スペースを管理するリーダーにも、新たに取り組むべきことがあります。例えば、2～4人ほどのグループで気軽にコラボレーションや交流ができる、柔軟に利用できるスペースを増やした上で、オフィス全体の規模を縮小し、経費を削減することに目を向けるなどです。

そのため、多くのハイブリッドワーク戦略において、小規模な会議室、つまりハドルルームの重要性が高まってきています。こうした会議室は、コラボレーションや臨時の会議のための場所として、また共有デスクやオープンオフィスの使用が増加する中でプライバシーを確保するため、欠かせないスペースとなっています。しかし、Wainhouse Research社のデータによれば、近年、会議室ベースのビデオ会議に対する関心が高まっているにもかかわらず、小規模な会議室でビデオ会議が行えるというのは建前であるのが現状です。つまり、依然として多くの企業では、こうしたスペースはビデオ会議に対応しておらず、コラボレーション環境に改善の余地があります。

加えて、ハドルルームをビデオ会議対応にするための適切なソリューションを見つけるのは、容易なことではありません。当初は、必要な機能を備え、かつ費用対効果の高いソリューションはそう多くありませんでした。コストを抑えようとする、管理機能が不十分であったり、会議の公平性を確保するのが難しくなったりするという状況でした<sup>1</sup>。

IT部門とエンドユーザーのニーズを満たし、費用対効果の高い小規模スペース向けのソリューションの需要が高まっているのは明らかでした。そこで登場したのが、ロジクールRally Bar Huddleです。

<sup>1</sup>会議の公平性とは、個々の業務の環境や状況に合わせて調整された機能を通じて、誰もが会議とその内容に同等にアクセスできることを表す概念。



の職場スペース担当経営幹部が、高度なビデオ会議機能を重要なテクノロジー上位3位以内に挙げている



は、重要なテクノロジーの第1位に挙げている\*



の小会議室しか、ビデオ会議に対応していない\*\*

\*出典：CBRE社、「Spring 2022 U.S. Office Occupier Sentiment Survey, Top 10 office trends taking shape in 2022」

\*\*出典：Wainhouse Research社、「2022 Workplace Update: Total Addressable Market of Conference Rooms Across Five Room Sizes」、2022年10月

## ソリューションの概要

## Rally Bar Huddle

ロジクールは、ハドルルームに必要な設備を導入する際に企業が直面する課題を解消するため、Rally Bar Huddleを発売しました。Rally Bar Huddleは、ハドルルーム向けソリューションとしてお求めやすい価格（参考価格\$1,699）でありながら、BYOD（Bring Your Own Device）ソリューションや他のアプライアンスベースのソリューションなど、市場で販売されている他の製品と比べても引けを取らない機能を備えています。

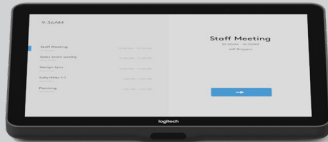
Rally Huddle Barはアプライアンスベースの一体型ソリューションです。導入がしやすく、ロジクールSyncによるリモート管理機能をIT管理者に提供します。一方、エンドユーザーにとっては、限られた小規模なスペースでも、より広い会議室での会議と遜色のない会議体験が得られる、優れたソリューションです。

4Kセンサー、4倍デジタルズーム、113度の画角を備えた高性能カメラを搭載。他にも、自動プライバシーシャッターや、卓上、壁面、ディスプレイへの取り付けができる汎用マウントなど、さまざまな優れた機能を備えています。

Rally Bar Huddleはさまざまな方法で導入できます。例えば、スタンドアロンのアプライアンスソリューションとしての利用の他、PCベースソリューションのUSBアクセサリとしても、あるいはBYODの会議室用周辺機器としても利用できます。

メーカー保証期間は2年間です。オプションの延長保証を追加で購入することにより、最長5年間に延長できます。

以上のようなハードウェアの優れた仕様に加え、Rally Bar Huddleは、CollabOSと呼ばれるコアオペレーティングシステムが、ソフトウェア対応で提供する豊富な機能も備えています。一例を挙げると、Group View、Speaker View、最大4人/4画面まで対応できるマルチストリーム/Grid Viewなど、RightSight2の充実した機能が搭載されています。また、Camera ZoneやGrid Viewなどの最新機能の他、さまざまなUCプラットフォームで利用できる機能など、これらはすべて、CollabOSの定期更新を通じて提供されています。



## 主な機能

1 主要なビデオ会議プラットフォームと連携

2 RIGHTSIGHTを搭載した高性能なAIビデオ機能を内蔵

3 ロジクールMEETUPに比べ音量が2倍

4 最大4倍ズームのデジタルPTZ（パン・チルト・ズーム）

5 マルチマウント

6 自動プライバシーシャッター

7 すっきりした配線と安全なケーブル管理

8 SYNCによる機器管理

9 サステナビリティ



## ロジクールのポートフォリオにおける位置づけ

Wainhouse社のアナリストとして、ロジクールの充実した製品ポートフォリオには感銘を受けました。Rally Bar Huddleは、ロジクールRallyファミリーの総仕上げとも言うべきソリューションです。小規模なハドルルームに適したコンパクトなつくりで、価格も手頃ながら、機能面やパフォーマンス面に妥協はありません。

Rally Bar Huddleが加わったロジクールのポートフォリオは、フォーカスルームから大会議室まで実質的にあらゆる規模の会議室に対応しています。また、Logi Dock Focus KitやロジクールSightなど他の画期的なソリューションが追加されたことで、カメラに対する要求水準が非常に高いユースケースにも対応可能となっています。その好例が、会議室前方のカメラ（Rally BarまたはRally Bar Mini）とテーブル中央に配置する高性能カメラ（Sight）とを組み合わせた、SightとRally Bar<sup>2</sup>からなるロジクール独自のマルチカメラソリューションです。

さらに、Rallyのポートフォリオに含まれる製品はすべて、ロジクール Syncとシームレスに連携します。これにより、IT部門は自社のビデオ会議機器全体で、ソリューションの導入と管理を横断的かつスムーズに行えます。

Rally BarまたはRally Bar Miniと、テーブル中央に配置されたロジクールSightを組み合わせたユニークなカメラ機能は、より質の高い会議体験をもたらします。この機能は、Rally Bar Huddleでは、ご利用いただけません。

## 課題は、ハドルルーム向けの低コストなだけのソリューションでは対応しきれないニーズがすでに市場に生まれていること

企業内に数多く存在する小規模な会議室に必要な設備を導入する際、課題はコストだけではなくありません。エンドユーザーもIT管理者も、それぞれ相応の要望を抱えています。

エンドユーザーがソリューションに求めるのは、使いやすいこと、オフィス全体の業務に適合していること、会議室の規模を問わず利用できることです。

IT管理者も、小規模な会議室に設置した会議機器の管理、維持、モニタリング、更新をより効率的に行いたいと考えています。加えてIT部門では、エンドユーザーによる会議室の使用状況を把握することも必要です。こうした情報は、BYODソリューションからは得られません。

現在販売されているハドルルーム向けソリューションの大半は、実際の設置スペースに見合う価格で、そうしたエンドユーザーやIT管理者が抱える相応の要望に応えることができていないと考えられます。そう言える理由のいくつかを取り上げてみたいと思います。



**多くの会議室、とりわけ小規模なハドルームは、よりダイナミックでインタラクティブなハイブリッドワークに必要とされる、高性能なビデオおよびオーディオ機能に対応していない。**

ここで鍵となるのは、会議室のテクノロジーは、リモートから参加している人にとっても、会議室内にいる人と同様に重要であるという点です。ハイブリッドワークでは、通常ほとんどの会議にリモートからの参加者が含まれます。したがって、自動フレーミング、ギャラリ画面、話者識別用のテクノロジー、高精度なノイズ抑制処理、フィルタリングなどのインテリジェントなビデオ機能およびオーディオ機能が必要となります。

遠隔地や自宅からの会議参加を促進し、リモートからの参加者が積極的に会議に関与できるようにするには、どの会議室でも一貫した体験を提供できることが不可欠です。

当社の分析によると、ビデオ会議対応の設備が用意されていないハドルームではBYODソリューションが使用されるケースが多いようです。BYODソリューションは、より広い会議室で利用できるインテリジェントなビデオ機能、オーディオ機能に対応していません。つまり、手頃な価格のアプライアンスを導入すればハドルームでも会議に不可欠な「公平性」が提供できるという事実<sup>1</sup>に未だ気付いていないのです。



**多くの企業は、オフィスに新しい働き方を導入する中で、様々な広さの会議室すべてで会議参加者に一貫したワークフローと体験を提供することの難しさを感じています。**

ハイブリッドワークは一過性の流行ではありません。単にパンデミックを契機として推進されてきた働き方ではなくなり、より持続的な働き方として採用されるようになってきました。ワークフローは絶えず見直され、ワークスペースも以前ほど型にはまったものではなくってきています。

会議の始め方、コンテンツの共有方法、ミュートとミュート解除の切り替え方などは、エンドユーザーが直感的に理解でき、会議室の規模にかかわらずオフィス全体で一貫しているべき会議室ワークフローの一例です。

以上のようなことから、企業はビデオ会議の導入に際し、さまざまな会議室での会議参加者に一貫した体験とワークフローを提供できるデバイスポートフォリオを必要としています。そしてそのソリューションは、新しい働き方に合わせて、社内<sup>2</sup>にいくつもあるハドルームすべてに高い費用をかけずに導入できることが理想的です。





現在販売されている多くのハドルームソリューションの多くは、機器管理や会議室の使用状況の把握ができず、IT管理者を手探りの状況に陥らせている。

BYODソリューションには、多機能の会議室ソリューションが一般的に提供しているような機器管理や機器制御の機能がありません。これはIT管理者にとって問題となります。システムは正常に機能しているか、そもそも機能しているのか、最新のソフトウェアはインストールされているか、システムには何が接続されているか、といった点を把握できないのです。

こうした情報を把握できなければ、小規模会議室にある会議用機器をIT管理者が適切に管理、保守、モニタリング、更新することはできません。また、エンドユーザーによる会議室の使用状況の把握も必要です。こうした情報は、BYODソリューションでは得られません。

## 当社が注視している新たなIT関連の懸念

サステナブルIT（「グリーンIT」とも呼ばれる）は最近登場した新しい概念で、IT部門が大規模な組織のESG目標達成を支援するために行う取り組みのことを指します。IT部門は、組織が環境に負荷をもたらす原因となると同時に、その負荷を軽減できる重要なパートナーでもあるというのが、サステナブルITの提唱者の認識です。この新しい概念は今後、企業がハドルームソリューションを評価する際の重要な考慮事項の1つとなります。ロジクール Rally Bar Huddleは、必要な機能を提供するだけでなく、企業が求めているサステナビリティへの取り組みについても十分に対応できる製品に仕上がっています。

Rally Bar Huddleを含むロジクール製品の多くは、PCRプラスチック、FSC承認済みパッケージ、カーボンオフセットなど、持続可能な取り組みを通じて環境への負荷を軽減しているため、導入に際しては、Scope 3の排出量の削減というメリットも考慮できます。

詳細については次の記事を参照してください。

[ITリーダーが組織のサステナビリティ目標達成に貢献する方法>>](#)



## ロジクールRally Bar Huddleは、Rallyの他のポートフォリオとともに、こうした懸念を解消する機能を備えている

私の考えでは、ロジクールRally Bar Huddleは、前述してきた懸念を解消することが可能です。Rally Bar Huddleの機能のポイントを以下にご紹介します。



### Rally Bar Huddleは最小規模の会議室でも公平な会議を実現

IT管理者は、ハドルルームにビデオ会議を導入し、そこで行われるビデオ会議の公平性を高めることができます。Rally Bar Huddleに内蔵された高性能なAIビデオ機能は、ソフトウェアの更新を通じて今後も進化し続けます。Grid ViewやSpeaker Viewなどの機能も利用可能となります。RightSound™AIノイズ抑制機能により最適化された、Rallyポートフォリオのクリアなオーディオにより、Rally Bar Huddleはリモートワーカーに自然な会議体験を提供します。



### Rally Bar HuddleをはじめとするRallyポートフォリオで、すべてのビデオ会議室の会議体験を一貫性のあるものに

Rally Bar HuddleをTap IPやTap Schedulerと組み合わせると、包括的なソリューションを構成して導入すれば、会議室のワークフローに合わせてソリューションを最適化しながら、会議室内の参加者に一貫性のあるビデオ会議体験を提供できます。Rally Bar Huddleは高い柔軟性を備え、アプライアンスモードでUSBデバイスとして導入することも、BYOD対応周辺機器としても導入することもできます。



### Rally Bar Huddleは、IT管理者が、小規模会議室をビデオ会議対応の戦略的資産とするために必要な制御機能とインサイトを提供する

Syncを使うことで、管理者は、会議室の使用状況全般のモニタリングや、更新の適用認証およびカスケード処理、機器の設定変更などを、クラウドベースの単一のプラットフォームから行うことができます。また、Syncのインサイトでは、人数や使用率など、会議スペースの使用状況を時系列に沿って確認できます。

Microsoft Teams®管理センター、またはZoom™デバイス管理ツールをすでにご利用になっていますか？ Syncは、Microsoft Teams、Zoom、Googleの管理コンソールとの連携が想定されています。後者の管理コンソールがプラットフォーム自体の管理を担当し、Syncが主要な機器の管理機能を提供します。

Rally Bar Huddleの導入を思い通りに行うためのさまざまな工夫もあります。すっきりした配線とさまざまなマウントオプションにより、ケーブルを安全に管理しつつ、配置する場所を柔軟に選んで簡単に設置、導入できます。





## Rally Bar HuddleとRallyポートフォリオに関するWainhouse社の総評

Rally Bar Huddleは、ロジケールのポートフォリオをさらに充実させる新製品であり、高品質で信頼性の高いビデオ会議ソリューションをハドルルームに導入することを検討している企業から、高い評価を獲得するでしょう。ロジケールRallyポートフォリオは、さまざまな規模の会議室や環境に導入できる様々な会議室ソリューションのラインアップを揃えているため、オフィス全体の会議体験を一貫性のあるものにできます。AIを活用したビデオ機能とオーディオ機能により、会議の公平性が確保され、ハイブリッド会議で、誰もが自身の映像と音声をクリアに届けることができます。

IT管理者は、Rally Bar Huddleを使うことで小規模会議室とその使用状況を把握することができます。これにより、ビデオ会議対応における会議室の戦略的価値が一層高まります。Rallyポートフォリオには、Microsoft Teams、Zoom、Googleなどの主要なプラットフォームと互換性のある、幅広い管理および導入オプションが用意されています。

まとめると、ロジケールRally Bar Huddleは、進化するハイブリッドワーク環境向けの費用対効果に優れた包括的ソリューションであり、会議室の規模を問わず一貫した体験と公平な会議を実現し、IT管理者による会議室の管理と制御を容易にします。





## LOGICOOLについて

**ロジクール**は、すべての人が情熱を追求できるよう支援すること、そして人と地球に優しい方法でそれを行うように努めています。ビジネスの成功に貢献し、仕事や創造的活動、ゲーミング、ストリーミングにおいて、人と人をつなげるハードウェアおよびソフトウェアソリューションを開発しています。Logitech Internationalは1981年に創立された、スイスのローザンヌに本社を置く、スイス連邦の株式公開企業であり、スイス証券取引所（SIX：LOGN）とNASDAQ Global Select Market（LOGI）に上場しています。ロジクールとビジネス製品、エンタープライズソリューションについて詳しくは、[www.logicool.co.jp/business](http://www.logicool.co.jp/business)、[Logicool for Businessブログ](#)、[@LogitechBiz](#)をご覧ください。

## WAINHOUSE RESEARCH社について

[Wainhouse Research](#)社は、ユニファイドコミュニケーションの分野において、コラボレーション用および会議用の製品とサービスに関する戦略的ガイダンスとインサイトを提供する会社です。当社のグローバルな顧客ベースには、音声、ビデオ、ストリーミング、ウェブコラボレーションソリューションを提供する既存および新規のテクノロジーサプライヤー、サービスプロバイダー、企業ユーザーが含まれます。当社は、市場調査やコンサルティングの提供、テクノロジートレンドや顧客体験に関するカンファレンスの開催、無料の週刊ニュースレターの発行、顧客や業界のイベントでの講演を行っています。

## リサーチャーについて

**Craig Durr**氏はWainhouse Research社のシニアアナリストで、専門は会議室コラボレーションテクノロジーおよびソリューションです。市場の規模や予測、製品やサービスの評価、市場動向、およびエンドユーザーと購買担当者の要望などの調査を行っています。製品開発、戦略立案、損益管理、価値提案の策定、およびセキュリティ、SaaS、およびユニファイドコミュニケーションサービスのビジネス開発に関わる責任者として、19年間におよぶ経験を有しています。Craigには、Poly、Dell、Microsoft、およびIBMでの職務経験があります。連絡先：[cdurr@wainhouse.com](mailto:cdurr@wainhouse.com)、Twitter[@craigdurr](#)、またはLinkedIn (<https://www.linkedin.com/in/craigdurr/>)